

## 宮城県の伝統的工芸品に対する新たなビジネスモデル提案について -クラウドファンディングの活用による産業観光の確立-

[2017・FW] 21421063 鈴木一平

### 1. 研究の背景と意義

研究の背景は伝統的工芸品産業の衰退である。

伝統的工芸品の生産額は昭和59年をピークに減少を続け、最盛期時と比較し5分の1まで減少した。また従事者数も昭和54年をピークに4分の1まで落ち込んだ。定量的に見て、伝統的工芸品産業の現状は衰退状態であると考えられる。衰退要因としては「需要低迷」「量産化不可」「人材・後継者不足」「生産基盤の減衰・深刻化」「産地知名度の不足」の5つがあり、この課題は宮城県でも共通だと考え、研究背景とした。

本研究の意義は第一に「宮城県の伝統的工芸品産業に最適なビジネスモデルを提案し補助金のみには頼らない“職人の自立化”の一助となる」である。第二に「モデル実現のために必要となる新たな行政支援策の提案」である。

### 2. 研究目的・方法

本研究の目的は「宮城の伝統的工芸品に最適なビジネスモデルを探る」、「そのモデルの課題点や注意点を明らかにし、最適な行政支援策を探る」の2点である。

本研究では村山裕三(2008)と中川政七商店の取り組みを先行研究とし、伝統的工芸品のビジネスモデルの方向性を検証する。また、宮城県の伝統的工芸品産業の現状と課題を具体的に把握するため、宮城県新産業振興課と白石市の弥治郎こけし村へのヒアリング調査を行う。

### 3. 研究結果・考察

先行研究(村山裕三 2008)によれば、伝統的工芸品産業の従事者にはマーケットを意識したビジネス感覚を意味する「経済性」と、伝統を損なうことのない付加価値の高い工芸品を生み出す「文化性」の両方が必要であり、この「経済性と文化性のバランス」を保つ提案が必要である。この内容に加え、ヒアリング調査で明らかになった宮城県の工芸品生産者と行政が抱える課題を合わせて検証した。結果、低コストで実現が可能であり「経済性と文化性のバランス」を壊すことなく継続的に展開できるビジネスモデルである「クラウドファンディングを使った産業観光の確立」を提案した。

文献調査を基に、クラウドファンディングを「不特定多数の人から資金調達する仕組みであり、電通の生活者消費行動モデルSIPSと同じ流れで共感を広めていく新しいファンづくりの手法」と捉えた。それにより、工芸品の製造

現場のある産地に出資者を招くことで工芸品の付加価値の源泉である製造プロセスを体感してもらうという新しい形の産業観光の確立を果たしつつ、クラウドファンディング出資者の情報拡散により更なるファンをつくっていく流れをビジネスモデルとして提案した。

また、現行の行政支援策では出資者との関係構築までカバーできていないという課題点を見出し、新たな支援策として「出資者への情報発信や関係性構築に関わる費用の支援」を現行のクラウドファンディング支援事業に加えることを提案した。

### 4. 結論

宮城県の伝統的工芸品生産者と行政の両面から課題を検証し、限られたリソースでも生産者が独自に展開できるクラウドファンディングによるビジネスモデルを提案できた。さらに、工芸品生産者のクラウドファンディング活用による成功例や出資者との交流事例などの評価を基に提案内容に対して一定の有効性を示すことができた。加えて、本研究では出資者との関係性構築が重要となるが、現行の行政支援策ではカバーしきれない面があると考え、「出資者への情報発信や関係性構築に関わる費用等の支援」を新たな行政支援策として提案することができた。

しかし、工芸品生産者にどのようにしてクラウドファンディングの利用を広げるかなどの課題も残った。

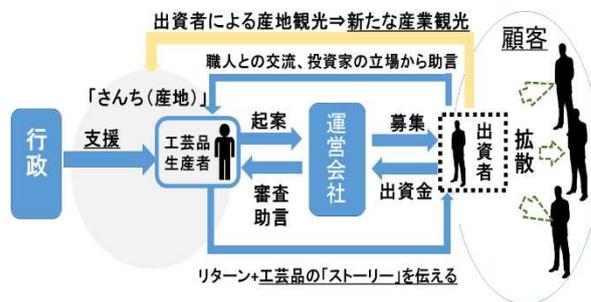


図 クラウドファンディング活用によるビジネスモデル